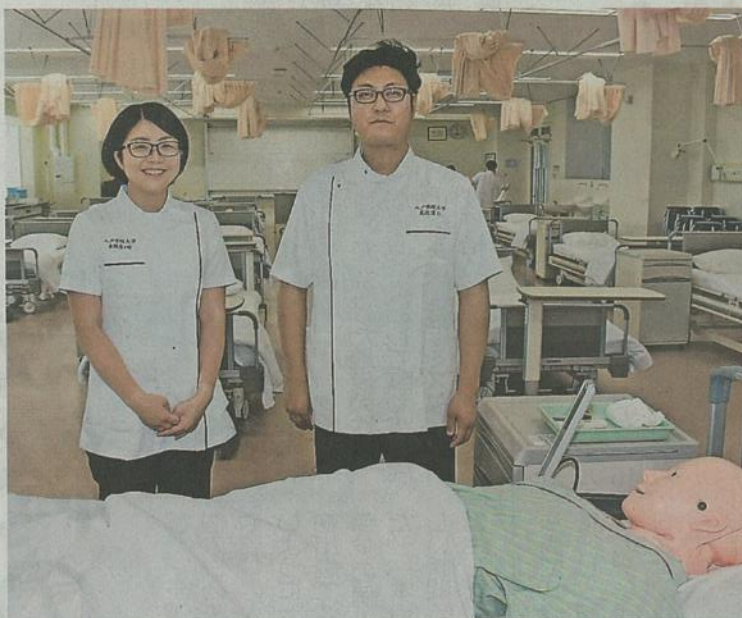


学び直し 33歳の挑戦



八戸学院大学の実習室で自主学習に取り組む倉間さん（左）と黒沢さん

八戸

社会人の倉間さん、黒沢さん

県南で唯一、四年制の看護系学科がある八戸学院大学に今春、社会人経験がある学生2人が看護師や保健師の国家資格取得を目指して入学した。現在33歳と同一年の2人は、子育てや仕事と両立しながら、それぞれの目標に向かって勉学に励んでいる。
（千葉真由美）

7月上旬、同大の基礎 康医療学部看護学科1年 黒沢宣仁さん（33）と成人看護実習室で、健 の倉間奈々絵さん（33）と

黒沢さんは入学前、南部町の介護施設に7年近く勤務。介護福祉士として利用者の入浴やトイレの介助などを担当していた。しかし利用者に軟こうを塗るときなど、医療の知識が求められる場面で自ら判断できないことに歯がゆさを感じ、「自分の判断でより良い介護ができるようになりたくて、看護師資格を取ろうと考えた」と動機を語る。同市には三年制看護専門学校もあるが、未就学児3人の子育てをしている

八戸学院大入学 看護師、保健師目指す



倉間さんは「大学の授業は午後4時に終わるので、余裕を持って保育園に迎えに行ける」という理由で同大を選んだ。専門学校の場合、午後の遅い時間まで講義が入っていることもあるからだ。家では家事や育児中心の生活のため、授業の空きこまと授業後の約1時間を勉強時間に充てるといふ。一方、約10年前から三戸町の清掃会社に勤務する黒沢さんは、知人から保健師の求人があると聞き、「資格を取れば長く続けられる仕事」と将来を見据えて転職を決めた。同市内の自宅から通学しやすく、保健師課程がある同大を選んだという。授業がない土日は今も同社で働き、浄化槽の点検業務などに当たる。将来について倉間さんは「看護師として再び在宅介護の仕事に就くか、興味がある母性看護分野に進むか迷っている。まずは病院に勤務し、医療現場で学んでから考えたい」と話す。黒沢さんは「教えることが好きなので、知識をつけ、できるだけ多くの人に関わる保健師になりたい。若い人たちに健康の大切さを伝えたい」と意欲的だ。同大看護学科には現在、倉間さんと黒沢さんを含め社会人経験者6人が在籍している。「この年になって学び直すのは重大なことと思われがちだが、日常生活の延長線上に学生生活があるような感じで、負担はあまり感じない」と黒沢さんは言う。同大は、看護など各学科で社会人経験がある学生を積極的に受け入れ、個別の相談に乗るなどしてサポートしている。